

## 中津君の『國民の資格』を讀みて：批評

著者	推移生
雑誌名	龍南會雜誌
巻	3 5
ページ	5 5 - 5 9
発行年	1895-04-05
その他の言語のタイトル	中津君の『國民の資格』を讀みて：批評
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/4556">http://hdl.handle.net/2298/4556</a>

下谷、恰、如、沈、地、底、上、山、更、似、踏、雲、梯、青、天、今、日、唯、咫、尺、吟、帽、高、摩、日、月、臍、五、家、山、中

梧園先生曰 言得

春夜聞雨

硯友會員 怕笑迂人

春雨聲冷吟骨臞。書窓夜靜客心孤。何知萬里遠征士。霜滿鐵衣冰滿鬚。

早春偶成

雪和凍雨壓東籬。柳帶餘寒未展眉。怪底春光至郊外。一聲隔竹聽黃鸝。

## 批評

### 中津君の『國民の資格』を讀みて

推移生

中津三省君足下、已を知る者をば知己と申候。天下知己少し、人生の樂多きが中み、知己を得るより樂きはあしと信じ候。足下と交を結びしより、早や數年を経候。常々足下をば知己とし敬ひ、僕不肖また竊かに、足下の知己を以て自ら任じ候。不幸にも、未だ龍南誌上足下の高説を聴くを得ず、其以て憾と致し候ひしに、今や足下時事に感ぜられ、『國民の資格』一篇を草せらる。茲に始めて、足下の高見に接するを得、僕の欣喜何ものかこれに過ぎ候べき。通讀數回、解する能はず候へども、而も彷彿として、僕の説に合するものあるを見るあとを得て、足下を信するの情愈々厚きを覺る候。僕の喜極りあく候。由來龍南誌上、法科生諸氏の文甚だ乏しく、安河内君去られ候以來、未だ嘗て此種の文に接し候はず。獨り小原君在りといへども、幽玄神妙甚だ俗耳に入り難く候。夫れ文の類また多し、華ありて果ささるば虚文と申し、玄を談じて實ささるば空文と申し、纖弱にして氣力なきをば軟文と申し、浮華に

して定りなきをば輕文と申し候。この四つの者は、之を文海の濁流と申し、民を迷はし世を亂だす所以の具に有之候。國家隆なるときは、伏して出でず、天下多事ある時は、かくまて顯はれず候へども、天下事無く、國家漸く亂まんとし候ときは、この四の者滔々蕩々として、俗を紊し風をやぶり候事、古今其例少からずとこ聞き候へ。夫れ文は以て、俗を施し、風を易へ、天下を治め、人心を正ふする所以の具と申之候。さればよや、世を憂ひ國を憂ひ候者は、この四の者を卻けて取り申さず、其言大なりといへども行ひ易く、其説高きといへども俗耳に入り易く候。老莊の玄々は、孔孟の諄々に如かず、西行を談するは、家康を論するに如かず、鎌田君の幽玄高妙は、村川君の卑近適切に勝る能はずとこそ信じ候へ。夫れ山陰山陽をば中國と申之、阿、伊、土、讃をば四國と申之、兩豐、兩筑、兩肥に日薩隅を加へて九州と申し候。我校は中國、四國、九國の俊秀の集まるところ、學生の數五百に余り候。法學生の數、豈た、百のみに候はんや。而も龍南誌上、其雄健ある説を屢々聞くことを得候はざるは、僕が常より龍南會誌の爲めに、悲みしところに候ひき。今や足下に於て之を見る、僕いかでか祝し候はざるを得べき。敢て信するところを述べ候へば、足下の説、大ならざれども而も空ならず、高ならざれども而も虛ならず、其文精あらざるを而も輕からずと申すべし。事實に基き、時勢を察し、建國の大本、勝敗の原理、富強の要素、一々數へて遺され候はざるは僕の賞賛措く能はざるところに候也。足下の所謂義勇奉公、自主敢爲、勤儉尚武、体力の強、思想の精、作用の敏と普通教育との説、僕また喜てこれをき候。今天下の學者と申し候者、稍もすれば放言空論して、自ら得たりと致し候。去れど放言益なく、空論實なきをいかにせん。巍々たる高山は、十壞の聚りに候、英雄競々ところ宋儒は申し候へ。足下獨り、思想の精をいひ、作用の敏をのべ、普通の教育を説かれ候事、まあとに僕等の面目と信じ候。去りながら、足下願くは僕を以て、拘々として、小事を好で大事を忘るゝ者と爲し候はるゝこと勿れ。夫れ小は拘はりて大を忘るゝは、支那の衰ふる所以候、大に馳せて小を忘るゝは、印度の亡ぶる所以に候、僕不肖といへども、敢て然るに候はず、抑も足下の國民の資格として數へられ候五の中、普通教育

をもて、殊に足下の卓見と致し候。僕嘗て普通教育の徳を思ひ、聊か心に得たるところあるものゝ如く感ぜ候。いかでか、足下の説と同じからざるを保せん、試に之を論せん。

僕の所謂普通教育とは、世俗の所謂普通教育の謂に候はず。僕の所謂普通教育とは、思想の涵養の謂に候。教育の主義また少からず、鍛鍊を主とする者をば、鍛鍊主義と申し。實利を主とするものをば、實利主義と申し候。注入を主とするものをば、注入主義と申せ、開發を主とするものをば、開發主義と申し候。普通教育の目的は、思想の涵養に候、人の人たる所以の、諸種の能力の基礎を成さしむるは其大目的に候。故に普通教育は、鍛鍊を重んじて實利を重んぜず、開發を主とて注入を主とせず候。夫れ普通學科の數實に多え、言語を教ふるを國語と申し、古今の變遷を教ふるを歴史と申し候。其他物理あり、化學あり、地理あり、數學あり、博物あり、圖書あり、これ等を一々專致せんこと、一人の能くするところに候はず。故に普通學は思想の涵養を第一とす、ところ申せ候へ。されば、國語は言語の變遷、文字の講究を主とせずして、讀書力を養ひ、文學的思想を涵養するを主と致し候。歴史は年代、事實、人名の暗記を主とせずして、歴史的思想を養成し、建國の本体を知り、國民の性質を知らしむるを主と致せ候。倫理は哲人の金言、經書の字義を分析研究するを主とせずして、忠孝仁義、禮節を學び、活潑敢爲、自主獨立、勤儉尙武、忍耐克己等の普通道德を養成するを主と致し候。物理化學は定律の記臆、公式の暗誦を主とせずして、科學的思想を養成するを主と致し候。地理は都邑、物産、人口の記述を主とせずして、邦國の位置形勢を察し、世界的觀念を養成するを主と致せ候。數理は以て、數理的思想を養成し、博物は以て、博物學的思想を養成し、圖書は以て、美術的思想を養成するを主と致し候。これに体育を加へて、普通學と申し候。文學的思想、美術的思想を養成するは、人性を高尙ならしむる所以に候、科學的思想を養成するは、思想を精密にし、作用を敏活にする所以に候。体育は体力を強健にする所以に候。此數者は普通學の綱領、教育の大体と申候ものにて、國家の興廢、民人の安危一にこれを繋がるに申すも、敢て過言に候はず。故に足下の數へられ候五の中、普通教育を以て、大眼目と申

すべく、普通教育完全に赴き候は、他の四は自ら得らるべく候。物本末あり、事始終あり、前後するところを知れば則道に近しとは、支那の哲人の語に候。普通教育は事の始めにして、根本を勉むるを第一と致し候。さればこそ、普通教育は、鍛練を重んじて實利を重んぜず、開發を主として注入を主とせず、ところ申せ候へ。故に普通教育は、一を主として雜を欲せず、正を撰びて變を追はず、一般を論じて特殊に及ばず、根本を尋ねて枝葉を探らず候。雜あるときは則惑ひ易く、變を追ふときは則ち亂れ易く、特殊に及ぶときは則ち智足らず、枝葉に馳するときは則ち力及ばず、いかでか其目的を達し候べき。高き上るは卑きよりし、遠き行くは近きより始むとは、事物の順序に候也。

夫れ百體九竅四肢五官は、人体の機關に候、而もみち、心も役せられ候。人体の機關にして心に背き候は、何事も成就致さず、耳目口鼻と兩手兩足と、各自獨立の運動をなし候は、一の目的も達せらるべく候はず。歴史、國語、地理、數學、物理、化學、圖畫、体操は普通學の部分な候。此の數者互に相待ちて、普通學の目的始めて達せらるべく候。歴史の地理と相關え、化學の物理と相關し、文學の科學と相關し、精神の身体と相關し候事云ふをまたず。故に維新以來今日に至るまで殆んど三十年、眞正なる學者と申し、正則ある事業家と申し、完全なる人物と申すべき者多からざるは、これ普通學を修めざる故と信じ候。普通學の始まりてより十數年、未だ天下の學生をして、普通學科の面白きを感じしむる能はざるは、これ教育家の過と信じ候。夫れ物の善不善は、皮想を以て斷じ難く候、用ふる所を過つときは、善も變じて惡となり、施す道を失へば、福も變じて禍となり申べく候。普通教育は、其道を得候へば、決して學生をして厭はしめ、飽かしめ候べきものに候はず。而も天下の學生をして、厭はしめ、飽かしむるに至りたるは、教育家の道を失ひたる罪に候はずや。過去の過はこゝに詳言するに忍びず、未來の改善こそ望ましく候へ。夫れ聾者は、ともに竿笏の音を論するに足らず、盲者はともに、文章の觀を論するに足らずと聞き候。かの未だ普通教育の眞想を解せざる者の云々するは、これ聾目の竿笏の音を論じ、盲目の文章の觀を論するものと同一に候。うゝる論者の消滅せざる間は、國民の

資格具有せられんこと、到底得べからず候。

翻つて今日の状態を見候へば、誠ニ茫然自失せざるを得ず、足下の茫然自失せられ候事、當然に候。夫れ九州の地、地方三千里、人口六百萬、北に魯西亞あり、南に台灣あり、西に支那朝鮮あり、東に本土四國あり、これ誠に大に爲すべきの地に候。而も普通教育の盛あらざる今日の如きは、豈國家の爲に嘆すべきことに候はずや。グラッドストーン氏は英國の大政治家に候、幼壯の時より數學の研究怠らず、後英國政府の財政を掌りて、大に功を立て候。故に埃及、耳古の事變に際し、能く國家の財政を治めたるは、數學を賤めざりし結果に候。レセップ氏は佛國の大工學者に候、能く地理を修めて、天下の形勢を暗んじ、深く世界の大勢を察し、遂に大功業を世界にたて候。故に蘇士運河を開鑿して、世界の商業上の大利益をなすを得たるは、地理に心を用ゐたりし結果に候。之を我國法學生が、法學の之を知りて他の學科を賤し、工學生が、工學のみを學びて、他に心を用ゐざるに比し候へば、果して如何。普通學の智識あくまては、専門科の研究は得べからず候、他の學科に疎くしては、一學科の成功は望みがたく候。一部生は二部的學科を賤まみ、二部生は一部の學科を疎んじ候ては、國民の資格の具有は望むべからず候。夫を放言高論して自ら得たりとし、空理に馳せて實事に疎く、玄を談じて世を賤むるは、普通學科を修めざる弊に候。一たび普通學科普及致し、天下の學生普通學科の眞味を解するよ致り候は、かの虛文、空文、輕文、軟文はすべて自ら消滅に歸し申すべく候。龍南誌上光燄萬丈の光景は火を觀るよりも明かに候。僕の信じ候ところ、まことにかくの如し。夫れ慮患擾なく、忠過罪なし、愚者意を陳じて、智者之を論ずと申候。足下願くは、僕の意のあるところを察せられ候て、僕に教へられ候は、僕の幸何物か之に勝り候べき。敢て愚信を陳じ候、再拜。

### 兩批評家に答ふ

T、K、生

兩批評家先生足下初夏の候計らずも足下等の高説に接して以來、九夏三伏も過ぎ、秋風落葉も心なく打過ぎ、年暮れて一陽來復となり